

◆第3分科会



1 会場 長岡グランドホテル（8月24日開催）

2 歓迎アトラクション 空手演舞（日本空手協会長岡支部悠空会）

3 研究課題 先人の知恵を現代の学校教育に、どのように生かすか
～学校とともに歩むPTAの在り方～

4 基調講演 高橋 譲氏（長岡市教育委員会教育長）

米百俵の精神を受け継いだ長岡市の「熱中！感動！夢づくり教育」

○講演内容

この施策を開始して14年目を迎える。本年度5億円の予算で75の事業を実施。

- ・方策1「どの子どもにも分かる授業の実現」教員研修など
- ・方策2「地域の力、市民の力を生かした教育の推進」地域人材の活用、スポーツ少年団育成など
- ・方策3「熱中・感動体験の充実」プログラミング教育推進、郷土長岡を語る「ながおか学」など

5 実践発表

◆熊倉達也（長岡市立坂之上小学校長）

- ・坂之上小学校は、国漢学校の流れを汲む学校。校訓は「つよく かしこく あたたく」
- ・各学年で地域活動をしている。中でも、6年生の英語劇「米百俵」は圧巻。上演15年目を迎え、本年は長岡リリックホールで一般公開を予定。会場は毎年満員なるとのこと。練習に入る前、卒業生が激励のメッセージを6年生に送る。

◆加藤 武（長岡市立坂之上小学校前PTA会長）

- ・PTAの紹介を90秒で行い印象に残るように工夫した。
- ・PTAの事業の工夫として、地域の事業と共催（相乗り）という形を取った。事業を行うには「人・モノ・予算」が必要。地域人材の活用、相乗りにより集まる人を増やした。
- ・PTA活動は、学校と一心同体。学校の目標とPTAの方針は両輪だ。
- ・活動に行き詰まったらPTAの規約にある目的に帰る。目的は先人の知恵。

6 パネルディスカッション

◆コーディネーター 今井進太郎（長岡市立神田小学校PTA元会長）

◆パネリスト 柳澤 魁秀（トリノ大講師）

山田 正紀（NPO米百俵スクールプロジェクト代表）

田村 豊（中越教育事務所社会教育課副参事）

佐藤 秀行（日本PTA全国協議会参与）

◆助言者 高橋 譲氏（長岡市教育委員会教育長）

＜パネルディスカッションの内容については、印象に残った発言を箇条書きにしました。＞

- ・長岡市は、時代のニーズと不易のバランスを取っている。何かをやろうとして考える。結果残ったものが不易。換えたものが流行といえるのではないか。人の生き方（道徳）は不易
- ・武士道は言い換えればフェアプレー精神。人に対する思いやりや相手を重んずる礼の精神
- ・道徳が教科化されるが、「なぜの部分を考えさせる」事が大切と思う。P T Aとして、家庭でも
- ・何よりも親が成長しなければいけない。親と子で学ぶことも大切。
- ・P T A活動の視点として、学校の目指す子ども像をP T Aも共有していくことが大切。
- ・子どもの時の感動体験は、大人になっても何かをし続けるもとになる。
- ・スローガン 旗印 当地では、米百俵の精神がある。これを伝え続けることで伝統になる。そして、ボランティア活動などの源にもなると思う。